

令和7年度 最上学園虐待防止委員会 会議録

日時：令和8年3月7日（土）13：25～15：35

場所：最上学園会議室

1 開会

令和2年度から開催している本委員会では、日々の活動の報告を経て、改善を行い実践に活かしている。さらなる支援の向上につなげていきたいため、忌憚のない意見を頂きたい。

2 別添資料に沿って学園職員が説明

3 委員評価・オブザーバー評価

○質疑応答

→虐待発生時にいた職員は現在どのくらい残っているのか。

会計年度の職員は残っている職員も多くいるが、正職員は入れ替わりがあるため、3～5人程度。

○委員・オブザーバー評価

- ・とても努力して支援してもらっていることが分かった。息子（入所児）も職員を信頼している様子で、楽しく暮らしているようなので、とても感謝している。
- ・これからも学校・学園で連携して支援にあたっていきたい。児童が落ち着かない場合などは学校でも時間を置いたり職員を交代するなどの対応を取っている。児童自身が意思決定をする機会、選択に対して責任をもって行動する機会を作ることを意識している。100%とはいかなくとも児童にできるところをできるだけやってもらおうという意識で指導に当たっている。学園での支援のいいところも共有しながら児童の成長に向けて連携していただきたい。
- ・日々、虐待防止のために様々な取り組みをしているということを改めて理解した。心理師の助言による心理ケアでは性教育など踏み込みにくい部分にも取り組んでもらっており、考えて日々の支援にあたっていただいていることが分かった。
マニュアル関係も見直し・改定を毎年行っているところはとても良いこと。
セルフチェックを毎日継続することは大変だと思うが、支援につながっているということで、日々の積み重ねから虐待防止していこうという姿勢を感じ、とても感心している。

実習生からの意見というのは貴重な外部の第三者からの意見ということで大事にしているってほしい。

様々な研修受講されていて、日々の支援にもつながっていると感心した。ロールプレイで実際に自分が当事者になってみるというのはとても有効だと感じるので、引き続きやっていってほしい。

- ・虐待発生当時のこの委員会は虐待が起きない体制づくりがメインと感じていたが、今年は虐待防止という狭い視点ではなく、支援力を高めて、利用者のためという姿勢が強く見られた。取り組みは引き続きやっていくと同時に意思決定支援の強化も尽力して欲しい。
- ・虐待防止研修の講師の市川先生の「～しない」「～してはいけない」という引き算の発想ではなく、「～したい」「～しよう」という足し算の発想というのを大事にするというのを当施設でもやっていきたいと感じた。
- ・毎日のセルフチェックは最上学園だけ。そういった姿勢を参考にしながら、実践につなげていきたい。当施設でも行動制限を行う際などは虐待に当たらないか意識を高く持って検討しているので、今後も3学園で情報の共有等、協力しながら虐待防止に向けて取り組んでいきたい。

4 閉会